

1. 科目名(単位数)	社会言語学 (2単位)	3. 科目番号	EJJP2344 EJJP2144						
2. 授業担当教員	古田 高史								
4. 授業形態	講義、グループ討議、発表等	5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	社会言語学とは、社会の中で言語がどのように使用されているかに関し理解を深める学問である。具体的には社会の中の性差、地域差、世代差などによる言語の運用について日本語を対象にしながら学んでいく。すなわち本講義は、日本語教育に必要な日本語の運用規則を理解するとともに、言語教育に携わる上での言語観を養うための基礎的科目といえる。日本語母語話者が無意識に行っている言語活動を「社会」という観点から見つめ直すことで、日本語の多様性および日本語の運用規則を理解する。								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会言語学の研究領域と研究対象を含む基礎的考え方を理解する。 2. 日本社会における言語使用の多様性について性差、地域差、世代差を対象としながら具体的に理解する。 3. 日本社会において日本語の会話構造を理解する。 4. 日本語教育における社会言語学の意義について理解する。 								
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小論文①: 第1章、第2章から興味のあるトピックを選び、800字程度の発表原稿を作成する。 2. 小論文②: 第3章、第4章から興味のあるトピックを選び、1200字程度の発表原稿を作成する。 3. 最終レポート: 小論文①、小論文②の内容を踏まえて、2000字程度のレポートを作成する。 								
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】石黒圭著『日本語は『空気』が決める-社会言語学入門』光文社新書、2013。								
11. 成績評価の基準と評定の方法	<p>○成績評価の基準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会言語学の研究領域と研究対象を含む基礎的考え方を理解できたか。 2. 日本社会における言語使用の多様性について性差、地域差、世代差を対象としながら具体的に理解できたか。 3. 日本社会において位相による日本語の運用規則を理解できたか。 4. 日本語教育における社会言語学の意義について理解できたか。 <p>○評定の方法</p> <table> <tr> <td>授業への参加態度</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>授業ごとの提出物</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>期末レポート</td> <td>40%</td> </tr> </table> <p>なお、本学規定により 3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			授業への参加態度	30%	授業ごとの提出物	30%	期末レポート	40%
授業への参加態度	30%								
授業ごとの提出物	30%								
期末レポート	40%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>この授業を通して、受講生が身の回りの言葉に関心を持つきっかけを提供したい。そのため、受講生の関心や状況に応じて、扱うトピックなどの調整を行う場合がある。</p> <p>受講に際して、特に以下の点には注意すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 欠席、遅刻、早退などせず、積極的に参加すること。 2. 提出物、宿題は必ず提出すること。 3. 授業での配布物はなくさないこと。 4. 教科書は毎回必ず持参すること。 5. 分からないことは、担当教員に必ず質問、確認をすること。 6. 授業に関係のない私語はしないこと。 								
13. オフィスアワー	授業内で周知する。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	オリエンテーション/社会言語学について考える	事前学習	社会言語学について、知っていることを箇条書きにしてみる。						
		事後学習	教科書目次を通読し、特に興味を持つ章を決めておく。						
第2回	序章「空気」の支配力、理論言語学と違った社会言語学について	事前学習	教科書 pp.3-17 を熟読しておく。						
		事後学習	教科書 pp.3-17 を読み直し、社会言語学と理論言語学の違いについて、整理してみる。						
第3回	第1章「社会言語学とは何か」言語共同体とアイデンティティについて	事前学習	教科書 pp.28-47 を熟読しておく。						
		事後学習	教科書 pp.28-47 を読み直し、言語共同体とアイデンティティについて、整理してみる。						
第4回	第2章「地域に根ざした言葉」①方言について	事前学習	教科書 pp.48-62 を熟読しておく。						
		事後学習	教科書 pp.48-62 を読み直し、地域に根ざした言葉について、整理してみる。						
第5回	第2章「地域に根ざした言葉」②方言教育について	事前学習	教科書 pp.62-71 を読み、方言への価値観について説明できるようにしておく。						
		事後学習	教科書 pp.62-71 を読み直し、方言教育について、情報を収集してみる。						
第6回	第3章「話し手に根ざした言葉」①言葉とジェンダー	事前学習	教科書 pp.76-81 を熟読しておく。						
		事後学習	教科書 pp.76-81 を読み直し、ことばとジェンダーについて、整理してみる。						
第7回	第3章「話し手に根ざした言葉」②若者ことば	事前学習	教科書 pp.83-89 を熟読しておく。						
		事後学習	教科書 pp.83-89 を読み直し、若者ことばについて						

			整理してみる。
--	--	--	---------

第8回	第3章「話し手に根ざした言葉」③役割語と「らしさ」	事前学習	教科書 pp.95-99 を熟読しておく。
		事後学習	教科書 pp. 95-99 を読み直し、役割語について整理してみる。
第9回	第4章「聞き手に合った言葉」①アコモデーション理論	事前学習	教科書 pp.105-109 を熟読しておく。
		事後学習	教科書 pp. 105-109 を読み直し、アコモデーション理論について整理してみる。
第10回	第4章「聞き手に合った言葉」②やさしい日本語	事前学習	インターネット等で、「やさしい日本語」について、調べておく。
		事後学習	「やさしい日本語」について、興味を持った内容をまとめておく。
第11回	第4章「聞き手に合った言葉」③やさしい日本語についてのディスカッション	事前学習	第9回、第10回授業を踏まえて、「やさしい日本語」の実践例について、整理しておく。
		事後学習	「やさしい日本語」についての意見を、400字程度で作文する。
第12回	第4章「聞き手に合った言葉」④尊敬語、謙譲語、呼称	事前学習	教科書 pp.109-114 を熟読しておく。
		事後学習	教科書 pp.109-114 を読み直し、日本語の敬語について整理してみる。
第13回	第7章「日本語の人称表現」	事前学習	教科書 pp.175-177 を熟読しておく。
		事後学習	教科書 pp.175-177 を読み直し、日本語の人称表現について、整理してみる。
第14回	第8章「言葉と言語」外国人児童の日本語教育	事前学習	教科書 pp.192-197 を熟読しておく。
		事後学習	教科書 pp.192-197 を読み直し、外国人児童の日本語教育について、整理してみる。
第15回	これまでの内容の振り返り、最終レポートの準備	事前学習	学習内容を復習し、疑問点を明らかにしておく。
		事後学習	授業内容について、特に興味を持った内容について、最終レポートを執筆する。